

人権啓発センター だより

平成28年1月

No.25



雑感

昨年は、LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー）の支援のため一部の自治体で同性カップル証明書の交付が始まるとともに、民法の夫婦同姓及び女性の再婚禁止期間の規定が差別であるとの訴えに関し、それぞれ合憲と違憲とする最高裁判決があった。

夫婦同姓については、判決は「国会で判断すべきもの」とされたが、裁判官 15 人中女性裁判官 3 人全員が違憲との意見であり、図らずも不利益の多いと推認される女性側の思いが表れたかたちとなった。各人の選択肢が確保され、選択の自由

度が高いことがより人権が尊重される社会につながると考えるので、家族制度全体の見直しについて、国会での議論の深まりに期待したい。

さて、今年はリオデジャネイロでオリンピックが開催される。昨年 11 月、パリ同時多発テロが発生し、多数の命が失われた。このテロを「第 3 次世界大戦の一部」と語った指導者がいるように、国際的なテロとの戦いや地域紛争が続いている中での開催となり、心配もあるが、平和の祭典が成功し、男子体操を始め日本選手の活躍など明るいニュースを期待している。

（企画啓発課 池本）



人権あれこれ

平成27年度「人権作文コンテスト高知県大会」の実施について

高知地方方法務局では、平成 17 年度から毎年、高知県教育委員会及び高知県人権擁護委員連合会との共催により、また、公益財団法人高知県人権啓発センターや高知新聞社、NHKなどの後援を賜り、次世代を担う小学校 5、6 年生、中学生及び高校生を対象とした人権作文コンテストを実施しています。

このコンテストは、児童・生徒らに人権課題に関する作文を書いていただくことにより、人権尊重の理念やその重要性について理解を深めるとともに、豊かな人権感覚を身に付けていただくことを目的とするもので、中学生の部の最優秀作品については、法務省が主催する「全国中学生人権作文コンテスト」に推薦しています。

本年度のコンテストへの応募総数は、各学校や関係機関からの御協力のお陰をもちまして、県内 129 校から 9,385 編の作品が寄せられました。特に、中学



校の部では、県内で 6,157 編の応募があり、これは県内の中学生の 3 人に 1 人が応募いただいたということになります。

また、作文の内容については、子どもたち一人一人が、その体験を通じて、友情、高齢者、障害者、外国人などの幅広い人権課題をテーマとし、人権に関するメッセージとして素晴らしい内容となっています。

今後、これらの応募作品は、「平成 27 年度人権作文コンテスト高知県大会作品集」として学校や図書館、市町村窓口などに配布する予定としていますが、皆様にも、是非とも一読いただき、子どもたちの素晴らしい人権感覚に触れていただければ幸いです。

（高知地方方法務局人権擁護課 石飛）



じんけんライブラリー

一押し本

子どもはみんな問題児。

中川 李枝子/著 新潮社 (1,000 円+税)

ベストセラー絵本「ぐりとぐら」の作者として、有名な中川李枝子さんによる子育ての本です。数多くの子どもの預かり育てた保母でもあった作者が、どの子どももみなすばらしい問題児、想像力豊かな子は遊び上手、子どもにおもしろい本は、大人にもおもしろい……。毎日がんばる、お母さんにいま伝えたい、「いざという時、子どもは強い」「ナンバーワンは、お母さん」などのメッセージを収めた本です。

子育てに悩むお母さんに贈る、心ほぐれる一冊です。

(企画啓発課 松本)



啓発パネルの紹介

さまざまな人権に関するパネルの無料貸出（貸出期間：1 カ月以内）を行っていますので、イベントなどで、ぜひご利用ください。

タイトル	テーマ	枚数
絵日記で考える外国人の人権問題	外国人	8
ハンセン病ってなあ〜に？	ハンセン病元患者等	11
こどもみんなが主人公	子ども	10
あなたのこころもバリアフリー	障害者	10
どんな世界に生まれたい？	女性	11
生き生き元気 土佐の国	高齢者	11
いっしょに考えてみませんか	人権全般	11
気づきから一歩へ	人権全般	12
ケータイを安全に正しく使うために	子ども・インターネットによる人権侵害	15
犯罪被害者等の人権	犯罪被害者等	8
災害と人権	災害と人権	8
高知県人権施策基本方針	人権全般	8
断固拒否えせ同和行為	同和問題	10

「ケータイを安全に正しく
使うために」



※詳しくは、当センターホームページをご覧ください。



事業報告

『第19回じんけんふれあいフェスタ』を開催しました

12月6日（日）に高知市中央公園で、第19回じんけんふれあいフェスタが行われました。

ステージでは、オープニングセレモニーから始まり、潮幼稚園園児のマーチング演奏のあと、人権作文コンテスト高知県大会の表彰式が行われました。続いて、幼稚園児の歌と合奏と一緒に人権キャラクターがステージを盛り上げてくれました。その後、「ソーライス」のお笑いライブとそれいけ！アンパンマンショーを行い、たくさんの来場者に訪れていただきました。



こども広場でも土佐の民話の紙芝居の読み聞かせや、森のおもちゃ工作教室、カラフルボトルオブジェ作りで子どもたちに喜んでもらいました。

啓発小間では、人権啓発パネルの展示のほか、人権に関するクイズやゲームなどもあり、来場された方々に楽しんでもらいながら人権について関心や理解を深めていただきました。

子どもから高齢者まで、昨年を上回る約14,000人の方にお越しいただき、明るく・楽しく人権に関心をもってもらえるイベントになりました。



午後には、県内在住の小学5年生、松村凜士郎（りんしろう）さんのソロピアノステージ、堀内佳さんのライブ&トーク、ステージの最後は、盲目のヴァイオリニスト増田太郎さんによる独自の演奏パフォーマンスで素晴らしいステージを披露してくれました。

会場内では、ジャグリングショー、バルーンアートのプレゼントのほか、ステージ終了後もお笑いコンビ「ソーライス」が会場内を練り歩き、いろいろな小間で啓発のお手伝いをしてくれ来場者を楽しませてくれました。

飲食小間では、土佐の食1グランプリ参加店や、県内の障害者就労施設の出店もあり、飲食・物産を買い求めるたくさんのお客様で賑わいました。



（企画啓発課 佐伯）



Information お知らせ

イベント紹介

平成 27 年度人権啓発研修ハートフルセミナー「ダウン症の娘とともに生きて」

●日 時：2016 年 2 月 21 日（日）14:00～16:00

●講 師：金澤泰子さん（書家）

金澤泰子さんは、娘の翔子さんがダウン症として、この世に生を受けたことに迷い悩みながらも娘に書道を教え、育ててこられました。翔子さんは泰子さんとの厳しい修練のなか「涙の般若心経」を書き上げ、その後全国各地での個展の開催やNHK ドラマ「平清盛」の題字をてがけるなど、書家の道を歩んでいます。

今回の講座では、母であり、書家である泰子さんが娘翔子さんとともに歩んでこられた経験を語ります。



●会 場：高知県立人権啓発センター 6 階ホール

（高知県立人権啓発センターへのお越しの際は公共交通機関をご利用ください）

●参加費：無料

●定 員：180 名（先着順にお受けし、定員に達し次第締め切らせていただきます）

※ 託児をご希望の方は、お問い合わせください。

●申込み、お問い合わせは下記まで、電話、FAX、Eメールでお願いします。

（企画啓発課 宮田）



じんけんライブラリー 利用案内

図書、視聴覚教材の貸し出しを無料で
行っていますのでぜひご利用ください

- 図書
1 人 5 冊以内で、期間は 2 週間以内です。
 - ビデオ・DVD
1 人 2 巻以内で、期間は 2 週間以内です。
 - パネル
1 人 3 セット以内で、期間は 1 カ月以内です。
- ※ 直接来所できない場合は送付もいたします。
（送料は利用者のご負担となります）



ホール案内

各種研修会等にご利用ください

- 収容人員
270 名（机を使用する場合は 180 名）
- 設備
放送設備、スクリーン、冷暖房
- その他
使用料、利用時間等についてはHPでご確認ください。

問い合わせ先

〒780-0870 高知市本町4丁目1番37号

公益財団法人 高知県人権啓発センター

E-mail : center@kochi-jinken.or.jp

TEL 088-821-4681 FAX 088-821-4440

HP : http://www.kochi-jinken.or.jp